

LPガスCP速報(2026年5月積)

1. 5月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **750** ドル (前月比±0 ドル)

ブタン **800** ドル (前月比±0 ドル)

① LPガスパット市況等

米、イラン戦争によりホルムズ海峡の封鎖が続いている。中東産LPG依存度の高いインド、東南アジア諸国は、在庫が急減し、特にブタンの逼迫は深刻な状況。インドは米国、ロシアからの調達も模索、サウジは紅海ヤンブー積みを最大化してアジアの需要を支えている。米国産の供給は増加しているが、輸出増にも限度がある。停戦合意で一時市況は下落したが、戦争終結、ホルムズ海峡再開に向けた協議は見通しが立たず、需給逼迫の長期化が懸念される。

米国市場をみると、需要は堅調、輸出はアジア勢の中東からのシフトもあり、過去最高水準(グラフ③参照)で推移している。全米プロパン在庫は、供給増により超高水準で5年平均レンジを上抜けている(グラフ②参照)。モンベルビュープロパンスポット価格は原油市況とアジア市場の高騰に支えられ月間平均では前月比6 ドル 続伸の400 ドル / トン どころ。

フレート市況は続騰した。米・イラン戦争でホルムズ海峡の封鎖が続き、中東積みポジションの船舶は米国に回航、余剰船を吸収した。米国タルガのターミナルは復旧、インド等アジア勢が米国産を求めて殺到、パナマ運河の通峡のオークションが高騰、喜望峰廻りも増加し、フレート市況を押し上げている。バンカーオイルの高騰に運航距離、日数の増加、米国産LPGの輸出増が見込まれるがコスト上昇は避けられない。

ナフサ市況(極東着)は大幅続騰、月間平均は前月比84 ドル 上昇の1,070 ドル / トン どころ、停戦前の7日には1,200 ドル を突破した。中旬には1,000 ドル を割り込んだが再び騰勢に転じている。ホルムズ海峡封鎖で、中東産ナフサの輸出が途絶、石油ショック状態。ナフサ高で代替ブタン需要増が見込まれる。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は反落、月間平均で前月比85 ドル 下落の680 ドル どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)も反落、前月比108 ドル 下げの1,520 ドル どころ。原油市況の上昇に連れ、ガスオイルは6日に2,064 ドル に達したが、停戦を受け急落し21日には1,200 ドル を割り込んだ。ただ、アジアの石油製品の需給逼迫は続き、バンカーオイルも第4週から再び騰勢を強めている。

5月CPは前年同月比プロパン140 ドル 、同ブタン210 ドル の上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン13、ブタン14ポイントそれぞれ上昇、前年同月比ではプロパン19ポイント、ブタン10ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東ー日本)	115	135	160	170	145
CP先物指標:P	680	685	690	735	698
CP先物指標:B	705	720	725	785	734

② 原油市況等

米・イラン戦争は、報復の応酬、戦線拡大によりペルシャ湾岸諸国の石油関連設備に被害が及び、ホルムズ海峡が封鎖され、WTIは7日に2022年6月以来の高値を記録した。停戦の合意により原油志向は急落したが、イランの核開発、ホルムズ海峡開放など戦争終結に向けた協議は進展せず、米国のホルムズ海峡逆封鎖によりエネルギーをはじめ物資のサプライチェーンが壊滅的な影響を受けている。29日イランの核問題先送りの提案をトランプ大統領は拒否、WTIは再び100 ドル を突破、騰勢を強めている。UAEがOPECを5月1日付で脱退することを表明、通常なら下げ材料となるが、市場は戦争、ホルムズ海峡封鎖、エネルギー供給混乱の長期化など最悪シナリオを織り込み始めている。

○4月積みアラビアン・ライト(4月1~29日までの想定)は106.90 ドル (前月比-19.71 ドル)

熱量等価AL100% プロパン 876.47 ドル / トン ブタン 864.45 ドル / トン

AL比 プロパン 85.57% ブタン 92.54%

*上記ALはEIN推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

2. 2026年5月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P 円建CFR	B 円建CFR	P 前月比	B 前月比
4 月 月 間	160.33	113,800	123,200	+22,800	+28,200

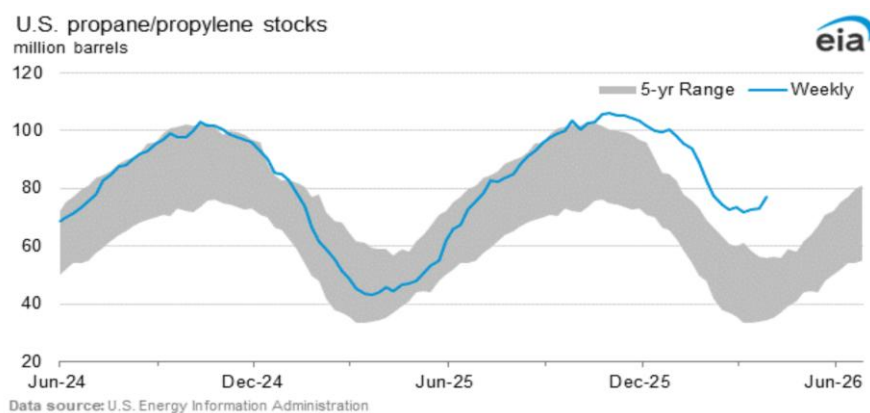
* T T S 平均等について、上記は4月1～30日までのT T S 平均。C P は前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はC P 70%、MB30%で算定。C F R コストは中東・北米フレートを含むC F R コストを表示。C F R コストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは4月28日までの価格を基にE I Nで試算（395ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、パンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はW e bサイトを参照。

① 米国プロパンスポット価格推移



② 全米プロパン在庫推移



③ 米国プロパン輸出量推移

